

第4回 川上ダムモニタリング部会 議事要旨

1 日 時 : 令和4年12月16日(火) 14:00~16:20

2 場 所 : 京都 JA ビル 会議室105

3 委 員

部会長 池淵周一 京都大学名誉教授

委 員 江崎保男 兵庫県立コウノトリの郷公園園長

海老瀬潜一 元摂南大学教授

角哲也 京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授

藤井伸二 人間環境大学人間環境学部人間環境学科准教授

松井正文 京都大学名誉教授

森下郁子 一般社団法人淡水生物研究所所長

(五十音順)

4. 議事要旨

● 令和4年度 川上ダムモニタリング調査結果について

【水質】

- ・貯水池の DO 低下が見られたが、放流水及び下流地点の DO は概ね環境基準値内であった。
- ・表層取水の実施や、流入水バイパスが未稼働であったこともあり、下流水温は流入水温より高い状況であった。
- ・流入水バイパスは、水温対策だけでなく、濁水対策にも活用することが望ましい。

【植物の重要種の保全】

- ・植物の移植については危険分散のため数カ所に分けているため、移植箇所毎に成否を判断すべきである。また、移植の成否について5年程度で様子が見えてきたが、10年程度で最終的な成否を判断してよいものと思われる。

【オオサンショウウオの保全】

- ・湛水区上流の個体群については成体等の分布範囲がやや拡大し、肥満度が減ることもない状況であり、幼生等の確認状況も減少の傾向は見られない。以上より、上流個体群は維持され、分布域も拡大しているものと思われる。

【希少猛禽類の保全】

- ・近年のオオタカの繁殖がみられなくなったことについては、これまで十分な保全努力を行ってきたこともあり、事業の影響が直接あるとは考えにくい。また、ノスリ、ハチクマ、サシバが繁殖しており、越冬期にはこれに他の猛禽類が加わるので、川上ダム周辺地区は多種多様な猛禽類が生息できる状況にある。

【河川環境】

- ・工事期間中(湛水前)の下流河川の物理環境(河床構成材料)は、ダム直下流において細粒化が確認されたが、今後はダムから土砂が供給されずに粗粒化にシフトしていくものと思われる。また、下流河川の工事箇所については今後も継続して把握することが望ましい。

- ・湛水中の下流河川の生物（魚類調査、底生動物、付着藻類、沈水植物、河川植生）は、生物群集の構成等に顕著な変化は現れていない。

以 上